

<株式会社エフエム東京 第 4 3 3 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 28 年 11 月 1 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

横 森 美 奈 子 委員長
内 館 牧 子 委員 秋 元 康 委員
ロバート キャンベル 委員 川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（1 名）

渡 辺 貞 夫 委員

◇社側出席者（9 名）

富 木 田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
延 江 営業局 エグゼクティブ・プランナー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
松任谷 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（1 名）

森田 編成制作局コンテンツ開発特命担当
兼 株式会社グラント・ロック代表取締役社長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 22 分）
『antenna* TOKYO ONGOING』
2016 年 10 月 15 日（土）22:00～22:30 JFN38 局ネットで放送

≪議事内容≫

議題 1:最近の活動について

■ボブ・ディラン ノーベル文学賞受賞記念特別番組

「The Times They Are a-Changin' ～時代は変わる～」放送

10月14日スウェーデン・アカデミーが、2016年ノーベル文学賞をボブ・ディランに授与すると発表したことを受け、10月23日(日)19時からTOKYO FM サンデースペシャル『ボブ・ディラン ノーベル文学賞受賞記念「The Times They Are a-Changin' ～時代は変わる～」』を放送しました。ミュージシャンの小室等氏と、アメリカ人の日本文学研究者・ロバート キャンベル氏が、ボブ・ディランの歌詞の文学的側面や、2016年にボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞する意味について探りました。受賞について小室等氏は「まるで親戚の兄貴が受賞したような気分!」と、ロバート キャンベル氏は「なぜ、今年?を理解するのに数分かかったが、まるで温泉に入るような感覚、じんわりと納得できた」と番組の中で振り返りました。また、発表当時「スウェーデン・アカデミーはボブ・ディラン本人と連絡が取れず、受賞を知らせる連絡を断念した」というニュースが流れたことについてロバート キャンベル氏は「受賞のニュース直後に行われたライブにヒントがある!」と、ボブディランが受賞後に行ったライブでの最後の楽曲について解説しました。



◀小室等氏とロバート キャンベル氏の
収録の様様

■TOKYO FM が『Laneway Festival 2017』日本初のメディアパートナーに

TOKYO FM とシンガポールのメディアカンパニー「MEDIACORP」社傘下の人気 FM ラジオ局「LUSH 99.5FM」は、アジア地域の環境問題への取り組みを連携していくパートナーシップとしてコンテンツ交流に取り組んでいます。TOKYO FM がステーションキャンペーンとして掲げる「アース&ヒューマンコンシャス」の理念に MEDIACORP 社が共鳴し、MEDIACORP 社でも環境啓蒙活動「SAVING GAIA」キャンペーンを展開していることから、両局の交流を進

化させ、アジア地域の環境問題への取り組みにおいても共同で推進していくことを目的としています。

今年 2016 年は、日本とシンガポールの国交樹立 50 周年の節目となる年でもあり、2016 年 5 月より、日本とシンガポールの 2 局ネットレギュラー番組が放送を開始しています。TOKYO FM では、レギュラー番組『TOKYO FM WORLD』（月・水 20:00-21:15）で、LUSH99.5FM から Recommend されたシンガポールの音楽やカルチャーの紹介、LUSH99.5FM では、TOKYO FM が Recommend する日本の音楽やカルチャー、さらにシンガポールの若者へ環境保護の重要性やリサイクル活動など具体的な取り組みを紹介しています。

そしてこのほど、番組を拠点としたイベント交流として、2017 年 1 月 21 日に開催されるシンガポールで大人気の音楽フェス『Laneway Festival Singapore 2017』に、TOKYO FM が日本初のメディアパートナーを務めることが決定しました。TOKYO FM が Recommend するアーティストとして、「水曜日のカンパネラ」「KOHH」2 組の日本人アーティスト初出演も決定しています。

今後もアースコンシャスの理念が日本とアジアを結び両国の若者に新しい音楽カルチャーを提示していく活動に取り組んでまいります。



▲水曜日のカンパネラ



▲KOHH

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

■MEDIACORP社とはもう3年くらい前からアジアとしての環境問題を発信していこうとパートナーを組み、様々な活動を通じた関係を続けている。Lanway Festival はオーストラリアで始まった、次にブレイクしそうなアーティストを集めて開催する音楽フェスだが、過去に一度、シンガポールで開催したことがあり、その時大量のゴミが散乱して問題になった。今回、LUSH99.5FMに、日本で開催されている音楽フェスを見学してもらうことで、如何に日本の音楽フェスにおけるゴミの処理・参加者の清掃意識の高いかを体感してもらった。LUSH99.5FM と TOKYO FM が一緒に加わることで環境に優しい運営をしようと今回参加するに至った。

○シンガポールは清潔な国というイメージが強いが、ゴミの問題があるのか。

■富裕層は召使いがいてゴミを拾うので、子どもたちが普通にゴミを捨てる。ゴミを拾うと「不衛生だから触ってはいけない」と親に怒られるような文化がある。イベントをやるとみんな当たり前のようにゴミを捨ててしまう。

○先日ベトナムのゴミ問題を聞く機会があったが、シンガポールがそんな文化だったとは驚いた。

■先日 LUSH99.5FM の社員と海辺でクリーンキャンペーンを行ったが、いろいろなゴミが流れついているのを目の当たりにして、環境問題と言うのは、「自国だけではなく海を通じたアジアの問題として考えて行かないといけない」と LUSH99.5FM 社員も環境意識に目覚めたと言っていた。

議題 2： 番組試聴

【番組名】 『antenna* TOKYO ONGOING』

【放送日時】 2016年10月15日（土）22:00～22:30 JFN38局ネットで放送

【番組概要】

本日も試聴いただくのは、10月15日(土)に放送した『antenna* TOKYO ONGOING』のダイジェストです。この番組は、フリーアナウンサーの田中みな実とホフディランの小宮山雄飛がパーソナリティーを務める“東京から未来を変えるヒト・アイデア”に迫るプログラムです。

カルチャー・ビジネス・エンタテインメントの最先端が息づき、常に変化する都市・東京で、未来を「ワクワク」するものに変える自由なアイデアに挑戦するパイオニアにスポットをあて、"ONGOING=現在進行形"で、いま東京にうごめく「ワクワク」を全国に向け発信しています。

本日も試聴いただく放送回で紹介したのは、10月15日、16日に池袋で行われた「新しい盆踊り」です。仕掛人である、『プロジェクト FUKUSHIMA!』代表・山岸清之進氏にお話を伺いました。震災をきっかけに有志で立ち上げた『プロジェクト FUKUSHIMA!』は、2013年に『フェスティバル FUKUSHIMA!@池袋西口公園』で、ビッグバンド生演奏による全てオリジナルの盆踊りを開催し、以降多くの人を魅了し続け、現在では全国各地で展開しているとのこと。「子どもの頃、盆踊りは町内会のおじいさん・おばあさんがやるイメージでダサいと思っていた」という山岸氏に、なぜ今盆踊りなのか、そのルーツを辿りつつ、現代人の心に響く盆踊りの魅力について伺いました。



▲山岸清之進氏(右)に取材をする小宮山雄飛

▲昨年の『フェスティバル FUKUSHIMA!@池袋西口公園』

当日のオンエア曲

■あまちゃん音頭 /大友良英

■Vive Le Swing / In-Grid

これまでの番組テーマ

- ロボット開発から、義足の研究へ。義足の開発を通じ世界に求めるもの
義足エンジニア 遠藤謙氏
- 地元の人がホテルで遊ぶ。音にもこだわった、個性的なホステル。
WISE HOSTELS TOKYO 代表取締役社長 佐藤弥氏
- 年齢、性別、運動神経に関わらず、みんなが楽しめる「ゆるスポーツ」
世界ゆるスポーツ協会 代表 澤田智洋氏
- 塩の楽しさ・魅力を伝えたい。塩の専門店『salt&deli solco』
ソルト・コーディネーター 田中園子氏
- 地場産業を知ってもらうキッカケを作るギャラリー『コトモノミチ』
するセメントプロデュースデザイン代表 金谷勉氏

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○ちゃんとまとまっていて、TOKYO FMらしい番組だった。キュレーションアプリを運営している提供社の意向も反映しているのが分かる。ただ、実際の盆踊りの音がないのは残念だった。事前に取材したものだから仕方がないのかもしれないが、CDなどの音源を流すのではなく、実際の盆踊りに熱狂する会場の音が入れば良かった。せっかくラジオなのだから、音と迫力で伝わって欲しかった。昔、リオのカーニバルを観たことがあるが、もちろんカーニバル自体もすごいが、感心したのは、街の人が「カーニバル以外の時」に必死で働いている。次のカーニバルでもっと豪華な衣装を着ようとか、それを目的に。盆踊りもそういうのに近いのかなって思った。なので、そういう「開催以外の音」とかも追えたらいいなと思った。スケジュールとか難しいと思うけれど。

○今回、進行・取材役を小宮山雄飛さんがつとめていたが、ミュージシャンとして知見がある方なので、彼が解説に回り、知らないことを取材していくのが田中みな実さんであればさらにリスナーに近い感覚の取材ができたのではないかと思った。

■2人の役割に関しては、番組内でちゃんと説明すべきだった。小宮山雄飛さんは番組内ではアーティストというのを強調する形になっているが、渋谷区の観光大使も務めているので、それもお伝えしておけばよかった。小宮山雄飛さんが取材に出ている意味と言うのを今後お伝えしていきたいと思う。

○前日に録っているのがもったいない。臨場感が伝わりにくくなってしまった。新しい盆踊りってどんなのだろう、早く西口の様子を知りたいと思って聴いていたが出てこないと思っていたら前日に録っているものだった。難しいかもしれないけれど、例えば去年の開催の音を流すとかはできなかったのだろうか。

■今回、はイベントを開催前に取り上げることで興味のある人がこれから行けるような放送日程にしたもので、実際に開催されている音をとることができなかった。この番組は実際に現場に足を運び、現地で取材する形で収録しているので、他の放送回では工場で収録をしたり、店頭へオジャマしたり、臨場感ある音が収録できている。今回のようなイベントを事前に取り上げる場合は「音」をもう少し考えていきたいと思う。

○おもしろく聴いた。きらりと光るすごくいい話がさし込まれていた。何故開催地が池袋かという理由が福島までの長距離バスが出ていたので直接繋がって

いるというその縁で開催地に選んだことや、パッチワークの絨毯を敷くようになった理由が除染のために土足で上がれるようにだったりとか。そういう点と点はおもしろかったので、それを繋ぐ部分がもう一声欲しかった。

○放送日の夜に盆踊りがあったようだが、中継を入れることはできなかったのか？

■番組の構成上収録となっていて、事前に収録・編集するため一部だけ中継を入れるのは大変難しい。

○全国の盆踊り、盆ダンスの話が出てきたので、実際に開催されている音が聴きたかった。また録音技術なのだろうか、取材先の音声とスタジオに戻って来た時の音声の差が分からなくて、いつ戻ってきたのだろうか、と思えてしまった。実際に踊っている人の声が聴けたら良かった。踊ったらどうなんだろうとか、喜びとか。

○今の新しい文化の中での盆踊りってこういう風になっているんだな、と番組で知ることができて、興味深く聴いた。盆踊りで意表を突かれるというのは、盆踊りの現場で「ダンシングヒーロー」が流れて万人が踊るとかそういうことだと思うが、CDの音楽が流れるのはもったいないと思った。ここ数年「渋谷のハロウィン」が話題になっていて、これは「渋谷に10万人が集まりました」と言われるのよりも、みんながSNSで上から撮った写真を拡散して受けるインパクトの方が強い。盆踊りは音があるから、インパクトという意味では、実際の音が伝えられたら良かったと思う。また、聴く人は、今の新しい流れの盆踊りと昔の盆踊りとのギャップを知りたいと思うから、短くてもいいから昔の盆踊りの編成を伝えても良かったと思う。実際、今、盆踊りはハロウィンと比べられて話題になっていると聞く。永井荷風によると、盆踊りが市民のところに来たのは昭和7年、ある百貨店の浴衣を購入した人が参加できると記していた。元々は鎮魂の歴史であったら、一般の人が気軽に参加できるようになり、若者が参加できるようになったといことで、ハロウィンと平行だ、と比べられることがある。ルーツも取り入れ、今昔を紹介できたらもっと面白いと思った。

○タイトルからすぐに内容を想像できなかった。キュレーションとは博物館のキュレーターかなと思って調べたら、IT用語の情報集積のことだった。

○今盆踊りに新しい流れがあるとは全く知らなかったもので、どんなものだろうと楽しみに聴いたが、実際の会場の音がなかったのものでそこまで想像できなかった。

○福島から始まった盆踊りとか、最近の盆踊りの流行りとか、いろいろな要素があったから素材が大変だったのでは。もっと1つに絞って深掘りしたら分かりやすかったと思う。

■情報を捨てる勇気も大切だと思う。心がけたい。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

11月26日(土)7:00~7:20放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7. その他

次回の放送番組審議会を、12月6日(火)に開催することを決めた。